

デーヴォ ガイド



2023.9.18-24

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?) 1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

10:1 律法には来たるべき良きものの影はあっても、その実物はありません。ですから律法は、年ごとに絶えず献げられる同じいけにえによって神に近づく人々を、完全にすることができません。

10:2 それができたのなら、礼拝する人たちは一度できよめられて、もはや罪を意識することがなくなるので、いけにえを献げることは終わったはずです。

10:3 ところがむしろ、これらのいけにえによって罪が年ごとに思い出されるのです。

10:4 雄牛と雄やぎの血は罪を除くことができないからです。

10:5 ですからキリストは、この世界に来てこう言われました。「あなたは、いけにえやささげ物をお求めにならないで、わたしに、からだを備えてくださいました。

10:6 全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物をあなたは、お喜びにはなりませんでした。

10:7 そのとき、わたしは申しました。『今、わたしはここに来ております。巻物の書にわたしのことが書いてあります。神よ、あなたのみこころを行うために。』」

10:8 以上のとおり、キリストは「あなたは、いけにえやささげ物、全焼のささげ物や罪のきよめのささげ物、すなわち、律法にしたがって献げられる、いろいろな物を望まず、またそれらをお喜びになりませんでした」と言い、

10:9 それから、「今、わたしはあなたのみこころを行うために来ました」と言われました。第二のものを立てるために、初めのものを廃止されるのです。

10:10 このみこころにしたがって、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけ献げられたことにより、私たちは聖なるものとされています。

律法は罪の自覚をもたらしますが、罪からの救いやきよめはありません。ですから私たちも、罪を自覚するだけでは足りません。また罪を言い表すだけでは足りないのです。言い表すならそれは神の御前でなくてはならず、ヨハネの手紙にあるように「御子イエスの血」が必要なのです。

「イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられたことにより、私たちは聖なるものとされている」とありますから、その確信を持って、イエスの血によってきよい者とならせていただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主に扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





10:11 さらに、祭司がみな、毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえを繰り返し献げて、それらは決して罪を除き去ることができませんが、

10:12 キリストは、罪のために一つのいけにえを献げた後、永遠に神の右の座に着き、

10:13 あとは、敵がご自分の足台とされるのを待っておられます。

10:14 なぜなら、キリストは聖なるものとされる人々を、一つのささげ物によって永遠に完成されたからです。

10:15 聖霊もまた、私たちに証しておられます。というのも、

10:16 「これらの日の後に、わたしが彼らと結ぶ契約はこうである。——主のことは——わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、彼らの思いにこれを書き記す」と言った後で、

10:17 「わたしは、もはや彼らの罪と不法を思い起こさない」と言われるからです。

10:18 罪と不法が赦される場所では、もう罪のきよめのささげ物はいりません。

10:19 こういって、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。

10:20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。

10:21 また私たちに、神の家を治める、この偉大な祭司がおられるのですから、

10:22 心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。

10:23 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。

10:24 また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。

10:25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

イエス様はご自身を「永遠のいけにえ」としてささげ、神の右に着かれました。それは父なる神と同じ地位である、すなわち神そのものであられるということです。それは「敵がご自分の足台となる」ときまでであり、全能の主の目からは全宇宙もまた霊的領域も変化しているということです。

主の十字架を受け入れた者は「聖なるものとされる」ことが目的ですが、それは人間的な修養努力による頑張りだけの力ではなく、「一つのささげもの」すなわち、イエス様ご自身の十字架と復活の力によってであり、また今も神の権威をお持ちである御子イエス様の権能によるのです。

ヘブル書の著者、また初代教会の指導者たちがこにあるような真理を確信するにいたったのは、イエス様の教えと旧約（特に神殿での祭儀）を十分に吟味したことによります。その上で聖霊による理解です。15節から聖霊の証しが書かれていますが、それもまた聖書にあるものです。すなわち聖書と聖霊とは切り離すことができないのです。聖書は神のことは、聖霊は神ご自身です。そのような信仰生活を送りましょう。

ところで、「これらのことが赦される所では、罪のためのささげ物はもはや無用です。」とあります。主の十字架によって赦された私たちに、ただ十字架だけが必要十分であるということをも銘記しましょう。そして何かあるごとに、必ず主の十字架のもとに行き、十字架を根拠として祈り

解決しましょう。

聖所とは、これまで述べられてきた、聖なる神のおられることです。幕屋や神殿では、そこに入るためには、罪赦されるための身代わりの血が必要でしたが、「イエスの血によって、大胆にまことの聖所にはいることができる」ようになりました。このイエス様が「新しい生ける道を開いて」くださったからであり、また偉大な祭司としてとりなしてくださるからです。

著者は「真心から神に近づこうではありませんか。」「希望を告白しようではありませんか。」「愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。」と勤めています。どれも大祭司であるイエス様が贖いをなし、今もとりなしていただくからこそです。

また「いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」とあります。クリスチャンは一人では本来の歩みができないものです。励ましが必要であり、また人間関係の難しさの中で成長できるものなのです。何よりも大祭司であるイエス様のもとで、神と交わるのですから、イエス様のもとに集まるのです。主の礼拝に集まることはクリスチャンの生命線です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたとの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

➤ 20日 水曜

へブル

10:26 もし私たちが、真理の知識を受けた後、進んで罪にとどまり続けるなら、もはや罪のきよめのためにはいけにえは残されておらず、
10:27 ただ、さばきと、逆らう者たちを焼き尽くす激しい火を、恐れながら待つしかありません。
10:28 モーセの律法を拒否する者は、二人または三人の証人のことばに基づいて、あわれみを受けることなく死ぬこととなります。
10:29 まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものと見なし、恵みの御霊を侮る者は、いかに重い処罰に値するかが分かるでしょう。
10:30 私たちは、「復讐はわたしのもの、わたしが報復する。」また、「主は御民をさばかれる」と言われる方を知っています。
10:31 生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。
10:32 あなたがたは、光に照らされた後で苦難との厳しい戦いに耐えた、初めの日々を思い起こしなさい。
10:33 嘲られ、苦しい目にあわされ、見せ物にされたこともあれば、このような目にあった人たちの同志となったこともあります。
10:34 あなたがたは、牢につながれている人々と苦しみをともし、また、自分たちにはもっとすぐれた、いつまでも残る財産があることを知っていたので、自分の財産が奪われても、それを喜んで受け入れました。
10:35 ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。



10:36 あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。
10:37 「もうしばらくすれば、来たるべき方が来られる。遅れることはない。
10:38 わたしの義人は信仰によって生きる。もし恐れ退くなら、わたしの心は彼を喜ばない。」
10:39 しかし私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

26節からは罪を犯し続けることの報いの恐ろしさが強調されています。モーセの律法によれば、「死刑に処せられる」というのですから、「契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者は、どんなに重い処罰に値するか」というのです。最後に残された、あわれみゆえの救いの道をも拒否するなら、「生ける神の手の中に陥る」こととなります。救われたということは感謝以外の何ものでもありません。

初代教会では多くの迫害があり殉教がありました。それは永遠の命の本当の希望を確認するためであり、後世の私たちもそれを知るためです。また主を信じる本当の姿勢を明らかにするためであり、この世の利害とは違う次元のものであるということを示すためです。

そしてクリスチャンにはそのような信仰に生きた人々の霊的DNAが受け継がれてきたのです。ですから私たちも、永遠の希望をしっかりと持ちながら、そのために地上のあらゆることに動じることなく、永遠の希望を失わないようにする必要があります。

そしてこの希望のゆえに苦しみに会っている人（捕えられている）を思いやり、励ましあってゆく必要があります。「なんでこんな目にあうのか」と言う人には、主の深いご計画と勝利の希望を信じてあげて、それを宣言し、主にとりなすことです。

「信じていのちを保つ者」になりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



21日 木曜

へブル



11:1 さて、信仰は、望んでいることを保証し、目に見えないものを確信させるものです。11:2 昔の人たちは、この信仰によって称賛されました。

11:3 信仰によって、私たちは、この世界が神のことばで造られたことを悟り、その結果、見えるものが、目に見えるものからできたのではないことを悟ります。

11:4 信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神に献げ、そのいけにえによって、彼が正しい人であることが証しされました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だと証してくださったからです。彼は死にしましたが、その信仰によって今もなお語っています。

11:5 信仰によって、エノクは死を見ることなくのように移されました。神が彼を移されたので、いなくなりました。彼が神に喜ばれていたことは、移される前から証しされていたのです。

11:6 信仰がなければ、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神がご自分を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければなりません。

11:7 信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神から警告を受けたときに、恐れかしこんで家族の救いのために箱舟を造り、その信仰によって世を罪ありとし、信仰による義を受け継ぐ者となりました。

信仰とはただ「信じ込む」というような感情的な面だけではありません。それは真実・忠実を表すビ

ストスという形容詞と関係していることばピステイスという名詞です。つまり信仰とは、信じた内容に対して真実に考え行動することであり、信じた方に対して忠実に歩むことです。このような生き方は、困難な現実の中でも将来の「保証」と「確信」をいただくことができるのです。

その信仰によって、「この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが見えるものからできたのではない」と悟りますが、これが「保証」と「確信」を生むものです。ですから神のことばを、私たちは祈りつついただくのです。

アベル、エノク、ノアの信仰の生き方に学びましょう。ささげ物に関して、神に喜ばれることを目指して、人々特に家族の救いのために、彼らを模範として、信仰によるならばどうすべきだろうかと、教えられ、それに真実に答え、忠実に実行しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



22日 金曜

へブル



11:8 信仰によって、アブラハムは相続財産として受け取るべき地に出て行くようにと召しを受けたときに、それに従い、どこに行くのかを知らずに出て行きました。

11:9 信仰によって、彼は約束された地に他人人のようにして住み、同じ約束をともに受け継ぐイサクやヤコブと天幕生活をしました。

11:10 堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都の設計者、また建設者は神です。

11:11 アブラハムは、すでにその年を過ぎた身であり、サラ自身も不妊の女であったのに、信仰によって、子をもうける力を得ました。彼が、約束してくださった方を真実な方と考えたからです。

11:12 こういうわけで、一人の、しかも死んだも同然の人から、天の星のように、また海辺の数えきれない砂のように数多くの子孫が生まれたのです。

11:13 これらの人たちはみな、信仰の人として死にました。約束のものを手に入れることはありませんでしたが、はるか遠くにそれを見て喜び迎え、地上では旅人であり、寄留者であることを告白していました。

11:14 そのように言っている人たちは、自分の故郷を求めていることを明らかにしています。

11:15 もし彼らが思っていたのが、出て来た故郷だったなら、帰る機会があったでしょう。

11:16 しかし実際には、彼らが憧れていたのは、もっと良い故郷、すなわち天の故郷でした。ですから神は、彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。神が彼らのため

に都を用意されたのです。

さらに続けてアブラハムたちから学ぶようにと、彼の信仰の生き方が述べられています。彼らは「天の故郷にあこがれていた」からこそ、その信仰がしっかりしていました。もしもこの世の見えるものしか分らなかつたら、状況や見通しに左右されるだけで信仰どころではないでしょう。神のことばも計画もうわのそらとなるでしょう。神様はご自身の備えられた「天の故郷にあこがれる」者に対しては、「彼らの神と呼ばれることを恥」とはなさらず、「都を用意して」おられるのです。

アブラハムのように素直に神に従い、天の都比べれば地上の生活は「天幕生活」であることを思い、サラのように（一度は不信仰ゆえに笑っても）最後は「約束してくださった方を真実な方」と考え、信仰を全うしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



23日 土曜

へブル

11:17 信仰によって、アブラハムは試みを受けたときにイサクを献げました。約束を受けていた彼が、自分のただひとりの子を献げようとしたのです。

11:18 神はアブラハムに「イサクにあって、あなたの子孫が起こされる」と言われましたが、

11:19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできると考えました。それで彼は、比喩的に言えば、イサクを死者の中から取り戻したのです。

11:20 信仰によって、イサクはやがて起こることについて、ヤコブとエサウを祝福しました。

11:21 信仰によって、ヤコブは死ぬときに、ヨセフの息子たちをそれぞれ祝福し、また自分の杖の上に寄りかかって礼拝しました。

11:22 信仰によって、ヨセフは臨終のときに、イスラエルの子らの脱出について語り、自分の遺骸について指示を与えました。

11:23 信仰によって、モーセは生まれてから三か月の間、両親によって隠されていました。彼らがその子のかわいいのを見、また、王の命令を恐れなかったからです。

11:24 信仰によって、モーセは成人したときに、ファラオの娘の息子と呼ばれることを拒み、

11:25 はかない罪の楽しみにふけるよりも、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。

11:26 彼は、キリストのゆえに受ける辱めを、エジプトの宝にまさる大きな富と考えました。それは、与えられる報いから目を離さなかつ

たからでした。

11:27 信仰によって、彼は王の憤りを恐れることなくエジプトを立ち去りました。目に見えない方を見ているようにして、忍び通したのです。

11:28 信仰によって、彼は長子を滅ぼす者が自分たちに触れることがないように、過越の食事をし、血を振りかけました。

11:29 信仰によって、人々は乾いた陸地を行くのと同じように紅海を渡りました。エジプト人たちは同じことをしようとしましたが、水に?み込まれてしまいました。

11:30 信仰によって、人々が七日間エリコの周囲を回ると、その城壁は崩れ落ちました。

11:31 信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちを穏やかに受け入れたので、不従順な者たちと一緒に滅びずにすみました。

アブラハムはイサクをささげましたが、それはいけにえとして殺すことを意味します。神様はそれを受け取り、イサクを殺すことはありませんでしたが、彼の信仰をよとされました。アブラハムは「神には人を死者の中からよみがえらせることもできる」と考えたのです。それはイエス様をご自身をいけにえとしてささげられたことと、死からよみがえられたことの雛形（ひながた）であるというわけです。

このように信仰に生きることは、イエス様の真理を表すことになります。主を証ししよう、伝道したいと思うなら、言葉も必要ですが、信仰の生き方もまた不可欠であり、大きな力になります。

またモーセがなぜあのような困難な神のプロジェクトに立ち上がったかということ、それは信仰です。「報いとして与えられるもの」を見ることで、「報いとして与えられなかった」からsです。信仰は正しい歩みに希望を与えてくれるものです。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24日 日曜

ヘブル



11:32 これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても語れば、時間が足りないでしょう。

11:33 彼らは信仰によって、国々を征服し、正しいことを行い、約束のものを手に入れ、獅子の口をふさぎ、

11:34 火の勢いを消し、剣の刃を逃れ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を敗走させました。

11:35 女たちは、死んだ身内の者たちをよみがえらせていただきました。また、ほかの人たちは、もっとすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを拒んで拷問を受けました。

11:36 また、ほかの人たちは嘲られ、むちで打たれ、さらに鎖につながれて牢に入れられる経験をし、

11:37 また、石で打たれ、のこぎりで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、困窮し、圧迫され、虐待されました。

11:38 この世は彼らにふさわしくありませんでした。彼らは荒野、山、洞穴、地の穴をさまよいました。

11:39 これらの人たちはみな、その信仰によって称賛されましたが、約束されたものを手に入れることはありませんでした。

11:40 神は私たちのために、もっとすぐれたものを用意しておられたので、私たちを抜きにして、彼らが完全な者とされることはなかったのです。

死を選ぶ人々もいました。日本でも殿様のために切腹したり、天皇のためにと特攻で死んだ人々もいます。これらの人々とここに記されている信仰の勇者たちとの違いは、永遠の希望すなわち「さらにすぐれたよみがえりを得る」という希望に関することです。

ここに記されている勇者たちは旧約の聖徒たちに加え、中間時代（紀元前1～4世紀ころの聖書に記されていない時代）の殉教者も考えられていると思われます。彼らは聖書や聖書に命じられている教えを捨てなかったで、ペルシャのアンティオコス・エピファネスなどのもので拷問で殺されました。彼らの信仰と犠牲がなければ、イエス様が救いを成し遂げる歴史的基盤がなくなっていたでしょう。

私たちは、このような殉教者たちの信仰を忘れないようにしましょう。神の福音である永遠の救いはそれほど尊いもの、命にかけても守るべきものなのです。そのような尊い救いを私たちはいただいているのです。

殉教者たちはすばらしい信仰を持っていましたが、その希望が「全う」されるのは、イエス様の十字架と復活そして再臨によらなければなりません。ですから私たちも終末の再臨において、彼らと共に、「すぐれたよみがえり」を全うしていただけののです。

この世にはさまざまな苦しみがありますが、「キリスト・イエスの愛から私たちを引き離すものはない（ローマ8:39）」との確信を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

人類には古くから戦いや事故・事件などで悲惨な死にかたをする人々は大勢いました。信念のゆえに

